

全国障害者問題研究会の研究誌

障害者問題研究

第52巻 第4号

特集

障害のある人の ケアする権利 を読む会

Vol.52

No.4

日時 2025年4月28日（月）19時～21時

zoom ミーティングによる開催



ケアを考えることで、私たちは誰もが他者に依存しなければ生きられないという事実、そして、生の多様性を社会的に受容できないのは、脆い社会であることにいき当たる。

担当編集委員 田中智子（佛教大学）、深谷弘和（天理大学）

【話題提供】

障害のある人のケアする権利の到達点と社会的課題 深谷弘和さん

ケアする経験からの報告 岡本幸恵さん

ケアされる経験からの報告 池田倫子さん

【参加者の意見交流】

参加申込



○参加費無料。お手元に当該号をご用意ください。
○読む会参加申し込みフォーム(右)から注文できます。

問い合わせ 全障研事務局 info@nginet.or.jp <https://form.run/@shoumonken52-4>

2024 年 7 月 17 日当時の岸田総理大臣が、優生保護法の除斥期間をめぐり、「…優生手術などは個人の尊厳をじゅうりんする、あってはならない人権の侵害」であると原告の前で謝罪したことが大きく報道された。その後、優生手術等を受けた者等に対する補償金等の支給等に関する法律が制定されたことにより、世間的には一定の政治決着がなされたと見なされている。

しかし、現実をみると問題は全く解決していない。一つには、その当時、行政ぐるみで何が行われたのかという事実を明るみに出す作業が必要である。次に、1,500 万円という補償金額の妥当性の議論と合わせて、補償金だけでは解決しない当事者たちの被害をどのように救済するのかという問題である。そして、この問題から引き出される教訓をどのように現代社会で活かしていくのかという問題がある。つまりは、障害のある人たちのケアする権利の確立が私たちには課せられているのである。一方で、国際的到達を見ると、障害者の権利条約第 23 条「家庭及び家族の尊重」において障害のある人の生殖の権利及び家族計画等に関する権利が明記されている。

本特集では、障害のある人のケアに関して、老親や配偶者・パートナー間など多様な属性間での営みがあることを理解した上で、あえて子育てという事象に焦点を当てた。それは、障害特性が、現代において社会的に期待される生む性・育てる性・母親業などと対立的な構造に置かれやすいからである。

本特集は、深谷・田中論文において障害のある人のケアする権利を把握する視座と社会的支援の課題について整理した。藤原論文において、母子生活支援施設での実際の支援場面において障害のある人がどのように捉えられ、母子という単位でどのように支援されているのかを考察した。森論文においては、2 万 5,000 人いるとされている強制不妊手術の被害者のうち、原告が 39 人しかいないという事実の背景にある、実態解明の困難さが明らかになっている。

実践報告においては、障害がある人のケアという事象に関わる多様なリアリティを当事者（ケアする側、ケアを受ける側）の立場から、あるいは調査を通じ

て描き出した。

本号は、「実践に学ぶ」の佐々木報告、松崎報告、及びワイドアングルの周報告や動向の工藤報告に至るまでのすべての論考において、ケアを正面に据え、現代社会におけるケアの意義と、それに困難が生じる社会的構造を指摘するものである。

ケアを考えることで、私たちは誰もが他者へ依存しなければ生きられないという事実、そして生の多様性を社会的に受容できないのは脆い社会であるという現実にいき当たる。これまでケアする権利を奪われた当事者たちが、私たちに受け渡したバトンを、本号を通して提起した。今後は本号を手にとっていただいた多くの人々との議論によってこのテーマを深めていきたい。

(たなかともこ 佛教大学)

■この号のもくじ■

特集にあたって 田中智子 1

障害のある人のケアする権利の到達点と社会的課題 ● 深谷弘和・田中智子 2

知的障害をもつ母親の育児 ● 藤原里佐 10

強制不妊手術の実態解明は道半ば ● 森 敏之 18

報 告

優生保護法と障害者の子育て ● 小森淳子 26

知的障害者の結婚と子育て ● 尾上真由美 32

障害のある私がしたい子育て ● 岡本幸恵 38

聞こえない両親の子育て ● 池田倫子 44

連載 実践に学ぶ

特別支援学校小学部の実践

“楽しい”を“いっぱい”！ 要求で踏み出すCちゃんの一步 佐々木健太 50

【佐々木実践に学ぶ】黒田吉孝 56

障害者の暮らしの場の実践

暮らしの場で利用者を見送ること——Aさんの「生きる」に寄り添って 松崎空木 58

【松崎実践に学ぶ】田中智子 64

連載 ワイドアングル

暮らしの場の選択の機会は保障されているか 周 英煥 66

動 向

「障がい児及び医療的ケア児を育てながら働く親の会」のあゆみ 工藤さほ 72

書 評

清水寛著『詩人教師・近藤益雄 その生涯——知的障害のある子たちとともに』

評者 河合隆平 77

第 52 巻総目次 79

●読む会へのおさそい●

障害のある人は、ただ他者からケアを受けるだけの存在でしょうか。いえ、家族をもち、社会に参画するなかで、ケア役割をもち、ケア役割をはたすひとりの人として尊重されたいねがいをもっているのでもあります。

そもそもケアとは何でしょうか。

特集は、障害がある人がわが子を産み育てる場合を中心に、ケアについて考えていきます。

障害者問題研究を読む会では、特集の内容からトピックを設定して、執筆者に直接語ってもらいながら、読者もいっしょに意見交換をしています。参加者からは、ひとりではなかなか読み切れないが、読む会で話を聞いてみんなで学べた、興味深い意見交換になった、という声が聞かれます。あなたも、この学び合いに参加してみませんか。

読む会はオンラインリモートです

『障害者問題研究』は、全障研の研究誌として、毎号、特集はじめ発達保障実践を深めていくための記事を掲載しています。全国各地から、教員・療育・成人分野・当事者・家族などさまざまな立場、職種がひとつの場に集い、学び合い、語り合います。

お求めは

全障研出版部

新宿区西早稲田 2-15-10 西早稲田関口ビル 4 階

電話 (03) 5285-2601・FAX (03) 5285-2603 www.nginet.or.jp

